

令和3年度文化芸術による子供育成総合事業－巡回公演事業－

ワークショップ実施計画書【コロナ対応版】

制作団体名	株式会社 ともしび
公演団体名	オペレッタ劇団ともしび

内容

およそ2時限で行います。朝鮮半島の民族楽器「チャンゴ」の演奏を聴いてもらった上で、基本的で特徴的なリズムを手拍子で練習します。
次に2グループに分かれ、それぞれがちがうリズムをたたいて、複雑なリズムを作り出す練習をします。この手拍子にあわせて役者が芝居のテーマ曲を歌います。
児童によるマスクをしての歌唱が可能であれば、小学校ではオープニングの2曲を練習し、リズム遊びとあわせて本公演に参加します。
また、朝鮮半島の伝統的な歌、楽器の紹介や、日本と朝鮮のわらじの違いなど、文化的な共通点と違いなどを知ってもらいます。
中学校ではカヤグムの演奏と歌唱を楽しんでもらいます。

タイムスケジュール（標準）

10:00 学校到着、10:30 ワーク開始 12:05 終了（途中休憩10分）
基本的には各校の3、4時限に行います。

派遣者数 ※派遣者数の内訳を御入力ください

主指導者1名、 補助者2名 計3名

学校における事前指導

事前にパンフレットを各クラスに掲示してもらい、作品への興味を持てるようにします。
希望があれば事前に楽譜、DVDなどを送付します。

令和3年度文化芸術による子供育成総合事業－巡回公演事業－

本公演実施計画書【コロナ対応版】

制作団体名	株式会社 ともしび
公演団体名	オペレッタ劇団ともしび

演目

オペレッタ「トラの恩がえし」
原作 韓国・朝鮮民話／
音楽:リ・ジェホ+韓国・朝鮮の伝統音楽から
脚本:中西明+韓国・朝鮮と日本チーム
演出:大野幸則+韓国・朝鮮と日本チーム
美術:内山勉 新井真紀

公演時間(90 分、換気休憩10分を含む)

派遣者数 ※派遣者数の内訳を御入力ください

出演者: 7名
スタッフ: 1名
合計: 8名

タイムスケジュール(標準)

9:30 学校到着 9:30～12:30 仕込み 13:30～15:00 本公演
15:10～16:40 撤去作業 17:00 退出
学校の条件により換気休憩をとらず80分公演とすることもできます。

実施校への協力依頼人員

公演終了後パイプイス(学校備品)の片付けにご協力いただければ幸いです。

演目解説

◆あらすじ

大昔は仲良く暮らしていたという人間とトラ、いつしかお互いを敵として、憎みあって暮らすようになっていました。山奥に母親と 2 人で暮らす木こりが、ある日けがをして苦しんでいるトラを助けます。思いがけず命を救われたトラは、木こり親子に恩がえしをはじめ、最後には自分の命をかけて一計を案じます。敵同士という垣根を越えて生まれる普遍の友情が胸を打つ朝鮮民話がベースとなっています。

◆上演にあたって

●録音やマイクなどの拡声器材を一切使わず、すべて生で歌い、演奏するオペレッタです。子どもたちが思わず声を上げて応援したり爆笑したりと、舞台と客席との交流が豊かで、演者と観客との心の交流が一層の臨場感を生み出す構成になっています。

●韓国・朝鮮の伝統的な楽器、歌、美術、独特のリズムを取り入れ、隣国との文化的な相違や共通点を知る機会ともなります。大道芸の妙技も楽しんでいただけます。

●演劇には悪条件と言われてきた体育館の構造を逆に活かして、「体育館演劇」と呼ばれる独特の空間を作り出します。具体的には、体育館の舞台も利用してスタジアム風の客席を設営し、後方でも見やすくする、音響器材を使わないことで余分な反響音をなくし、歌やセリフを聞き取りやすくする、などの工夫をしています。

●役者たち自身が構成を練り、場面場面を話し合い、試し合って創る「デバイジング」方式をとっています。役者たちがお互いを認め合い、「生きあう」ことが、作品のテーマである「生きあう力」を舞台上で表現する支えになっています。

児童生徒の公演への参加方法、公演に参加させるための工夫

●朝鮮半島の伝統的なリズムを、2グループの児童・生徒が手拍子でかけ合い、ひとしきり独特の味わいを楽しんだ後に、そのリズムに乗せて演技者がオープニングの歌を歌います。エンディングでも同様にリズム遊びで参加します。

●小学校では、歌唱が可能であれば、オープニングの歌と、それに続く「わらべ唄」を舞台上でいっしょに歌います。

児童生徒とのふれあい

作品そのものが、劇中で役者が児童に話しかけるなど、児童の反応を引き出す構成になっています。

また時間的に可能であれば、終演後バックヤードツアー(舞台裏見学)を行います。重そうに見えた材木が実際はどんなものか、劇中で使われた人形や武器、楽器などを間近に見てもらい、出演者が説明して交流します。